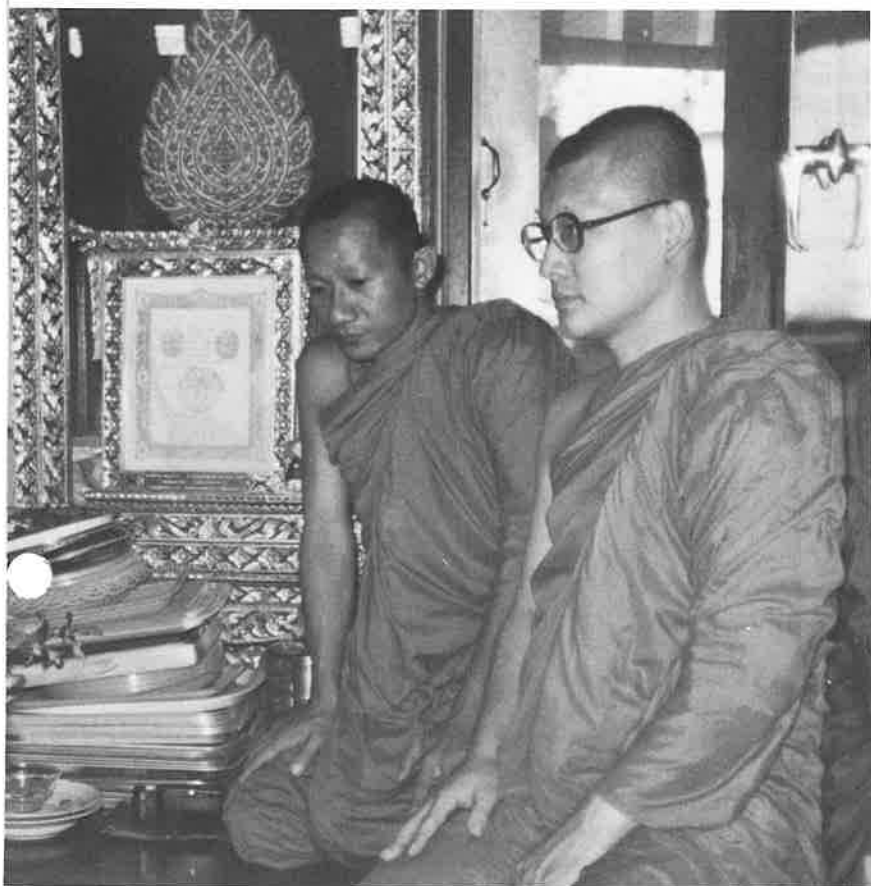


の僧院にて

留学僧 田中智誠

留学僧 梅田尚平

山主 黒田大圓



タイ

方丈〓お二人にこうして現地でお会いできたことは大変うれしいこととございまして、ご住職にもお目にかかってお二人の様子をお伺いして、私なりに意義のある事とございました。

安居中に会えたという事は非常にありがたいことで、お釈迦様並びに歴代の猊下に感謝を申し上げます。この育英会も日本ではかなり注目されておりますし、明年はアメリカに留学僧を送る計画で広く募集しており



ます。タイからアメリカへ、そしてヨーロッパ、中国へとという段階を経て行きたいと思っておりますが、お二人の貴重な体験を今後の為にも皆さんにお伝えしたいと思っております。

前回の「成寿」で、私が二十年前にバンコックで修行しておりましたことを発表いたしました^が、最近そうした体験を発表する方が少ないものですから、皆様にご好評をいただきました。

については、お二人のタイでの様子を記事にしたいと編集部から要請がございましたので、いくつか質問をさせていただきたいと思います。

日本の仏教とタイの仏教は、形を異にしておりまして、戒律を重んじるタイの仏教の中に入って、修行で苦しかったことは、どんなことでしたか？修行ですから苦しい苦しくないというのはないんですが、いかがですか？

田中〓日本の禅門にも結制安居がございまして、九旬間安居といって、移動を禁じておりますが、これは南方の仏教の形態が伝わって、日本では修行の基本になっっているわけですから、不便がある事は事実ですが、私の場合は特別、大変だということはありません。

方丈〓禅宗の田中師のご意見でしたが、浄土宗の梅田師は、はじめてのご経験もあろうかと思われまます。婚約者を日本に置いていらしたという事情もありませんし（笑い）いかがでしょうか？

梅田〓日本で、私なりに考えていた戒律仏教と、実際

に黄衣をまとって二二七の戒律の生活をしてみたくはいというのではありません。戒律仏教というと、日本の内情からみると、大変だ、苦しいという先入観がありますが、こちらでは、気候とか自然環境といったもののせいか、開放的で非常に明るい感じをまず第一に受けました。

当初、四月に着きましたから、真夏の気候に体が慣れるまで、約一ヶ月ぐらいは苦しかったですね。あとは食事の面ですが、食べ慣れた日本食からいきなりタイの食事にと……。はじめは托鉢もしておりましたが、お寺の食事にも慣れて参りますと、ポチポチおいしくいただけるようになりました。非時食戒（注、正午過ぎには固形物を飲食しないこと）のほうもはじめの頃は空腹感もありましたが、徐々になくなってきました、もう今では、その方が体が調子がいいというような状態で、今となつては別段苦しいというような事はありません。

方丈〓四月にこちらにいらしたばかりですし、こうい



う質問は適切ではないかもしれませんが、日本の僧侶に対してタイの民間人はどんな感覚を持っているとお感じですか？

田中〓微妙な問題でもありますが、長年タイ僧侶に籍を置かれているこちらの比丘衆におかれては、やはり不信感を持っておられるような気がいたしますが、大同団結して、我々が出向いた形になって居りますので、日本の僧としてかなり好意的に対応し、好感を持ってくださっていると感じます。

方丈〓タイ僧からみた日本の僧侶への反応といったものはどうお感じですか？

梅田〓私自身もこうして黄衣をまとっていますので活動的には小乗仏教のお坊さんに違いはないんですが、われわれはタイに着きましたから得度式までの時間が短かったということもありますし、お寺に住まれる在家・ウバイ・ウバシカ・サミー・メイテイラ・比丘方も、私たちの一挙手一投足を、大乘仏教のお坊さんとして接することが少なかつたと思いますので、そうい

った反応を直接彼らから聞くことはできなかったんですが、一度彼らにアンケートを取ったことがあるんです。

一六一人のうちに解答者が九五名ありました。解答の中で一番多かったのが、日本のお坊さんに対して、きびしさという面を挙げています。それはどういうところから受けたのかと申しますと、テレビで一休さんとかマンガなどがありまして、そんな影響もあるうかと思えます。

タイ人のお坊さんから見た日本の仏教というものに関しては、性格上からいうと、大乘も小乗もかわりございませんで比較的理解はされていると思うんですけど……。

方丈〓タイ僧の日本の仏教によせる思いというか、そのあたりはいかがですか。

田中〓一般論になりますが、タイの東南アジアにおける立場とか世界的な立場にしても、よく民族的高揚というカナシヨナリズムといいますが、言語に関する政



策としても現れておりますが、仏国、仏教による国という優越意識というのがございまして、異国のものと比較対照するという知識というのは、ごく一部の学問僧の中以外には、そうした雰囲気は感じませんでした。方丈＝タイに来て仏教観に変化があったり、僧侶としての自覚に加わってくるものとか、そういう面でお聞かせ願いたい。

梅田＝大乘の方では菩薩道を強調しますので、お坊さんといえども、人の為の働きというのを非常に重要視する訳ですけれども、それは結局自利利他のいわゆる菩薩道に通ずることなんです。タイのお坊さんはそういう面では自己中心的な面が多いので、ただ、日常生活の上では、戒律を守るといふ事がまず第一に重要なポイントとして長い間伝統を守っておられる仏教です。それから、そういう面では非常に違いがあります。

日本の仏教は、気候風土その他、タイとはちがうんですが、やっぱりタイの仏教がそのまま日本で通用するかというのは問題だと思えます。

田中＝大勢で生活する場としてのお寺の秩序ですね。中堅僧の方々は、自分に課せられた役目だけ果たしてそれ以外はお互いに関知しないところがあるですね。特に沙弥などに対しての指導というところ、日本ではかなり積極的に上から指導して行きますが、見て見ぬふりといいますか、少々物足りなさを感じます。具体的目標というか僧侶としての第一義として、日本の場合と比較しますと、物足りないと思えます。

方丈＝タイの風土になぜ二千年百年にわたって上座部仏教が根づいているかということを一言づつお聞きしたいと思えます。

梅田＝同じ仏教にしましてもビルマにしろ、タイ、カンボジア、そのいろいろな国によって特色がありますけれど、タイに限って申しますと、やはり、土着信仰といえますか、そういったタイの古くからの信仰と仏教がうまく結びついて、形を変えながらも生きてきているといわれますが、それが果して本来の上座部仏教の姿といえるのかどうかは疑問だと思えます。その辺



が今後の問題になるところだと思えます。

田中〓この問題に関しては簡単に語れる問題ではなく、かなりむつかしい問題ですが、ビルマとタイは上座部仏教を語る場合に、かたや自由主義かたや社会主義という事で、対照的な訳ですが、歴史的にはおなじように、ビルマも長く王政が続いておりましたし、国王によって仏教が保護されて、量的に仏教徒のしめる割合が非常に多いわけで、今日仏教を抜きにして国を語れないという国であります。

大乘・小乗という事になりますと、日本とタイというのは対照的な関係になりますし、カトリックとプロテスタントの関係を借りていえば、カトリックがタイ・プロテスタントが日本という感じで、形をとるか中身をとるかというところで、日本は現実の生活に合わせ、精神的な面を尊重する。タイの場合は、地理風土の関係で両極分解しているという現状と把握しています。方丈〓お二人が貴重な体験を持って帰国されたのち、これは生かしたいなと思われることがあつたらお聞か

せください。

田中―一番強く感じたのは形の素晴らしさ。形式にとどまらず、形を超えた素晴らしさというか、形になりきっている素晴らしさというのは、ちよつと真似のできないものがあります。たとえば、合掌する姿とか、一般の、若い僧に対する敬意の払い方とか、又、今日、タイにおける仏教がここまで来ているというのほもちろん上からの庇護もありますが、一般大衆によって守られ、励まされているという面もございまして、形式にとどまらず、形の中で日本が見習うべき素晴らしきものがあると思います。

梅田―日本の仏教はどちらかというと宗祖仏教なんですけれども、私自身として、釈尊に還るといいますが、もう一度その時点に還って、釈尊のみ教えを見直したいと考えています。やはり真実のものはパーリ教典の中にあると思いますので、帰ってからでもこの教典をひも解いて、自分なりによく味わって、そうしてその言葉を一般の方にも広く識っていただきたいと、そのよ



三喜庵

うに考えております。

方丈〓お二人のそうしたご意見を今後の僧侶としての生活にふまえて『Boys be ambitious』の ambitious をどのように抱いていかれますか？

梅田〓やはり今回幸いにご縁をいただきましたので、今後何ら部仏教の実践をさせていただきまして、今後何らかの形でタイの仏教と日本の仏教の交流、発展の為に、微力ではありますが何らかのお役に立ちたいと、それを将来の自分の志としてやって行きたいと思えます。方丈〓ありがとうございます。

おおいに両国の仏教の為に、釈尊のみ教えの為に、お力をお貸しただけなら、こんなにありがたい事はございません。

田中〓こちらの留学を通しての収穫というのは、当初私の課題でもあったわけですが、漢訳仏教、中国仏教の流れを汲む日本の仏教で納得いかない、しつくりいかない、わかりにくい事柄とかいろいろあったんですが、若干こちらでの生活、またインドから中国

を経て日本に至るまでの伝播を、はっきり把握する事はむずかしいですが、おぼろげながら手がかりになるような共通性とか、またこちらで生活をはじめ、今まで理解しにくい事柄も、直接パリー語の解説による正統的なよりどころになるもの、仏教に徹して、若干ではありますが一とつのヒントといいますか目安が感じとれたんではないかと思えます。

方丈〓ありがとうございます。

最後に、思いがけないタイの習慣、これは面白いなあと思うことやエピソードなど何かございましたか？田中〓私は禅宗ですので、達磨さんというのは禅宗にとっては法を伝えられた大切な方ですが、達磨さんという方は南方の人に達しないと思われるような例えは、こちらの僧伽において、朝の托鉢の時の時間の計り方ですとか、これは、日本の叢林に中国を経て伝わっている古儀と合致するものがたくさんあります。たしかに達磨さんは、ビルマやタイでみられるお坊さんの共通項、やはり取材されたんではなからうか

と感じます。それからもう一点、在家者が僧侶に対して、例えばお寺以外で施食を供養される経験をしたんですが、日本の京都なんかでは、そういう体験は、ちよつとできなくなっているわけですけども、十数年前（？）までは、日本でもあつたはずなんです。托鉢僧、行脚僧に供養すると……。こちらは面食らつたんですが、そういう貴重な修行をさせてもらえないという得がたい体験、これはもう日本ではできなくなっているんです。

方丈〓私も二十年前、日本一周行脚で大変親切にしていただいた経験がありますが、最近では行を積むとか仏祖の行復を行ずるといふことが現実として少なくなつてきてるんで、淋しいなあと感じてるんですが……。

梅田先生いかがですか？

梅田〓半年の間にかなりいろいろ行事がありまして、それはやはり非常に比丘の役割というのを儀式を通じて民衆の心の拠り所という面で、お坊さんに対する接し方や考え方が日本の場合と違うと感じられた事、そ

れから儀式に通じる一般の儀礼ですけれども、そういったものには本来の仏教にはなかつた多分に呪術的なところも見られますんで、そういった面では、日本の場合とも共通項はありますが、もつと土着的な民族宗教になつていつてるといふ危惧が感じられましたけれども……。

方丈〓長い間ありがとうございました。

とにかく無事に安居を済ませる事ができたというのは、ひとえに先生方のお徳のいたらしめるところと思つております。来年になりますと、お二方とも日本に帰られることになるかと思ひますが、帰国なさつても、健康に留意されて、大いに仏法の興隆にお尽したいだきたいと存じます。

本当にありがとうございました。